

新編

No.2
2018 春号

街角の祈りのかたち
願いが叶うお稲荷さん

新
散策

善通寺

ふる里の風景を探る



空海の里を
再発見する
特集
民間信仰の
人気の秘密を探る





正一位稻荷神社

街角の祈り

現世利益

お地蔵様、観音様、荒神様、明神様などの小さな祈りの場は、市内の至る所で見られます。人々は日々の平穏無事なることを求め、五穀豊穡、家内安全、無病息災、商売繁盛などの現世利益を願い、それぞれに靈験（神仏の不思議な力）のある神仏に祈願しました。それには、必ずしも立派な境内は必要なく、家の神棚や屋敷の祠、社寺境内の合祀社、街の片隅あるいは路傍など様々な場所で見かけられます。その起源も

自然発生したもののから既成宗教が変容したもの、神仏習合を起源とするものなど様々です。近世以降、先祖供養や葬式などが檀那寺で行なわれると、人々の日々の祈りは、権威ある神仏というより、祈祷寺やそれを守護する神仏の靈験に向けられました。こうした民間信仰は消滅するものもありましたが、社会不安が高まる江戸時代の晩期に急速に増えて人々の生活に根づいていきました。街角にみる小さな祈りの場は、今も続く人々の祈りの風景なのです。

稲荷神

由来が明瞭でないことが多い街角の神仏は、ふつう本社や本山から神仏の分身・分霊を移して祀る勧請^{かんじょう}から始まると言われます。身近なところでは、赤門七仏薬師は総本山善通寺1200年を機に吉原七仏薬師堂から勧請されたものです。江戸時代後期、人々の祈りに呼応するように霊験が顕われた神仏が各地で勧請されていきました。なかでも稲荷神社は全国神社総数8万社のうち3万社を数え、八幡、伊勢、天神信仰に次ぎます。特に、江戸では「伊勢屋稲荷に犬の糞」と言い、江戸で多いものの喩えにされました。善通寺市では、香色山山麓に正一位稲荷大明神が鎮座し、中腹には奥の院があります。江戸ほどではありませんが、近隣の町にも必ず稲荷神社があります（下図）。実は、稲荷神社の総本社とされる伏見稲荷大社は、空海が嵯峨天皇から下賜された東寺の五重塔創建と深い関わりがあります。伏見稲荷が鎮座する稲荷山は五重塔建立のそま香山（木材切出しの山）にされたため、稲荷神の崇りじゅんなで淳和天皇が病気になり、天皇が稲荷神に従五位下の神階を授けると回復したと伝わります。



赤門七仏薬師



吉原七仏薬師堂

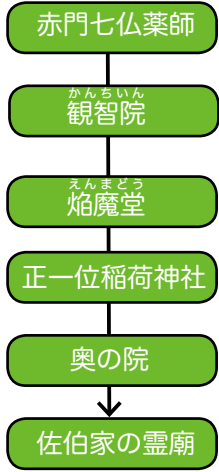
七仏薬師



● 善通寺市近隣の稲荷神社



赤門八日市（赤門七仏薬師前）



人気の秘密を探る

日々の祈りの場

神仏や人とのふれあい

善通寺周辺には、小さな日々の祈りの場が数多くあります。なかでも子供を守護する地蔵菩薩は道祖神の性格をもち、至る所にみられます。姿は出家僧が多く、六道を巡りながら人々の苦難を救う菩薩とされ、子どもの成長や病氣治癒、さらに安楽死などのご利益を祈願する地蔵尊もあります。

一方、赤門七仏薬師の周辺では、お薬師さんの縁日の毎月八日に、八日市と称して参詣者にぜんざいやあめ湯などを振る舞う「お接待」をはじめ様々なイベントが実施されています。街角の祈りの場は、神仏のみならず人とのふれあいの場なのです。



赤門七仏薬師

お参りすると乳の出が良くなることから乳薬師とも呼ばれ、昭和50年以降に粉ミルクが普及してからも、安産や授乳のご利益があるとして信仰されています。



子安観音 (観智院)

善通寺塔頭観智院は、安産、子育ての守護
たっちゅうかんちん
 仏として信仰されていることから子安観音
 と呼ばれ、地蔵とおなじく子供に関する
 ご利益があるとされています。

正一位稲荷神社

香色山麓の稲荷神社は、山の中腹に奥の院
 を擁します。その参道には、かつて多数の
 鳥居がありました。京都の稲荷山に鎮座す
 る伏見稲荷大社の様子に似ています。



豊臣秀吉建立の伏見稲荷大社楼門



千本鳥居（伏見稲荷大社）

空海と稲荷神

稲荷神が化身した老人が東寺の空海を尋ねた時、空海はその老人と同伴者を快く迎え入れたと伝えられます。

よろず 萬 願いごとが叶う お稲荷さん

伏見稲荷大社

稲荷神社は全国に3万社以上あり、私宅の屋敷稲荷まで入ると日本最多とも言われます。伏見稲荷大社はその総本宮で、本来渡来系氏族の秦氏はたの氏神でした。京都太秦うづまさの秦氏は松尾社を、深草の秦氏は稲荷社を創建しました。民間信仰の代表として広く信仰される稲荷社の起源は、次の故事に依ります。712年、深草の秦氏が矢で餅を射ると、その餅が鳥へと姿を変えて飛び去り、ある山の峰にとまったところ、稲がたわわに実った（稲荷山）といい、稲荷神のご加護を感じた秦氏はそこに氏神を祀ったと伝えられます。



お稲荷さんのご利益は万能で、五穀豊穡や病気治癒、商売繁盛などの人々の様々な願いに応えてくれます。先述のエピソードや稲荷神の使いであるキツネが作物を害獣から守ると考えられていたことから、稲荷神は豊作の神である宇迦御魂神うかのみたまと同一視されて崇められたようです。また、病気治癒あがの神威については、淳和天皇じゅんなや豊臣秀吉の母の病気回復が良く知られています。淳和天皇は治癒祈願の際に従五位下（後に正一位）の神階を授け、豊臣秀吉は母の病気平癒の返礼に伏見稲荷大社へ楼門を寄進しています。

商売繁盛のご利益は、三越など三井グ

香色山に鎮座する稲荷神社

ループの守護社である三^{みめぐり}圃神社（通称三圃稲荷）に関係が深いようです。三圃神社の“圃”には三井の“井”があることから「三井を守る」と考えられました。元禄時代に同業者から嫌がらせを受けていた三井越後屋が、鬼門の方角にあった三圃稲荷を守護社として崇めることで、嫌がらせはなくなり、お客も増えて商売は繁盛したといえます。これを聞知った全国の商売人に稲荷信仰の火が付き、稲荷神に参拝、あるいはそれを勧請し、祈願成就の返礼に伏見稲荷大社へ鳥居を奉納しました。千本鳥居の数は祈願成就の数を表しています。



五重塔（東寺）

東寺の守護神

枕草子にもその賑わいが描かれた稲荷祭では、御旅所を発った神輿行列は東寺で「東寺神供」を受けて本社に向かいます。平安初期、嵯峨天皇より東寺を下賜された空海が五重塔建立のために稲荷山より材木を切り出したところ、その祟^{たたり}りで淳和天皇が病気になるしました。天皇が左記の神階を受けると病気は回復し、稲荷神は京の人々から福神として崇められました。空海の対応は不詳ですが、「空海がかつて東寺の守護を依頼した檜^{すぎ}の葉と稲を担いだ老翁（稲荷神の化身）とその同伴者を歓待し、さらに彼の稲荷山で鎮守の祈祷を行なった」という伝承から、空海が稲荷神を東寺の守護神にしたと言われます。上記の東寺神供はこうした事情から生まれ、稲荷神は真言宗の布教とともに広がりました。鎌倉時代、稲荷神に神使^{しんし}としての狐の伝承が登場します。狐は太^た積^じ尼^に天^{てん}（白狐に乗る天女）と習合し、以降稲荷神は狐を併せて勧請されます。こうして、独特な神仏習合の祈りが生まれました。

ご利益を願う 寺社参詣の旅

日本の旅の原風景



崇徳天皇社の神宮寺だった天皇寺（坂出市）



七福神



修験者による柴灯護摩（善通寺）

さまざまな祈りの場

6世紀に日本に伝来した仏教は、日本の神と融合調和しながら広がりました。神社に神宮寺（別当寺）が建立され、僧侶が仏式で祭祀を行ないました。近隣では、第79番札所の天皇寺が崇徳天皇社の神宮寺でした。その後、仏や菩薩、天部は日本の神の姿で、例えば阿弥陀如来は八幡神、大日如来は伊勢大神として現れたと考えられました。七福神のうち唯一日本の神とされる恵比寿は蛭子命または事代主命のことと云われます。さらに、中国道教の三尸説が日々の祈りに取り入れられ、人の体に巢食

う虫を見張るといふ庚申信仰が生まれました。この神仏習合の思想は明治の神仏分離令まで続き、民衆に広く浸透しました。また、空海がもたらした密教は加持祈祷による現世利益や供養による即身成仏の祈りを民衆に伝えました。江戸時代になると、幕府の檀家制度によって寺院は檀家の先祖供養を行なう檀那寺（回向寺）と現世利益を旨とする祈祷寺に分かれました。こうして、人々は先祖供養は檀那寺へ依頼し、日々の平穏無事やご利益の祈りは様々な神仏習合の神に捧げました。個人の祈りを除けば、祈祷寺の僧侶や神職、陰陽師、修験者などの祈祷師に依頼したようです。

弥次喜多の珍道中とは？

江戸時代の寺社参詣は、必ずしも純粋な信仰によるものではなく、旅の名目にされました。寺社参詣とすることで国越えの通行手形が取りやすかったためです。十返舎一九が描く弥次喜多の珍道中から、ご利益信仰や参詣旅の様子を知ることができます。



庚申堂（郷照寺）

庚申の申



丸亀ヨリ金毘羅、善通寺、弥谷寺道案内図



江戸講の名が見える金毘羅燈籠（丸亀港）

参詣旅の魅力

体系の整った宗教ではなく、生活習慣から生まれた宗教は民間信仰と呼ばれます。民間信仰を支える組織に講こうがあります。本来の講は仏典講義の参会者のことですが、同じ信仰で結ばれた地域の人々が一堂に会して飲食談議したり（田の神講こうしんや庚申講など）、念仏を唱える（念仏講）集まりを指します。こうした地域の講以外に、有名な社寺に講員の代表者が参詣する代参講がありました。講員は参詣のための旅費を積み立て、くじや順番で代表者を決めました。代表者は帰宅すると参詣社寺のお札をお土

産として講員に配りました。代参講は社寺が派遣した御師と呼ばれる布教社によって支えられました。こうした講は四国遍路には近年までなかったようですが、その顕著な例として、江戸時代後半に一大ブームになったお伊勢参りがあります。100万人もの参詣者が訪れたというお伊勢参りの旅の様子は、十返舎一九の東海道中膝栗毛で知ることができます。元々近隣の象頭山松尾寺の守護神だった金毘羅大権現もその好例で、金毘羅神の非常な靈験を求めて全国から参詣者が集まりました。その人気の高さから、一九は膝栗毛の続編として金毘羅参詣続膝栗毛を執筆しました。



不二地蔵（善通寺）



大吉地蔵（郷照寺）



ぽっくり地蔵（郷照寺）



風景を楽しむまめ知識

息災の祈り

七仏薬師

薬師如来は現世利益を担う数少ない如来で、日本では多くの寺院で祀られています。西方の阿弥陀如来に対し、東方には七つの如来が座し、最も遠い第7の薬師瑠璃光如来が薬師如来とも言われます。これらの如来は薬師如来の別名ともされますが、はっきりしません。京都の東寺の金堂に座す薬師如来は光背こうはいに七体の化仏けふつを配す七仏薬師如来と言われます。平安時代、天台僧が7体の薬師如来を並べて祈る七仏薬師法を修して藤原摂関家の安産祈願を行なったことから有名になりました。赤門の七仏薬師による母乳のご利益も、この故事に関係するのでしょうか。



粟島明神（香色山麓）

粟島明神（淡島明神）

粟（淡）島明神は安産や子授け、婦人病の治癒など女性へのご利益があると言われます。粟島神は、粟島から常世（神の国）に向かった医薬の神の少名彦名神であるとか、古事記の国生みで不具に生まれたため蛭子神とともに流された淡島神であるとか、あるいは婦人病のために粟島に流された住吉神の妃ではないかなど、諸説がみられます。粟島神のご利益は、医薬や温泉の神とされる少名彦名神もしくは住吉神の妃の伝説に由来するようです。江戸時代には、淡島願人という人々が御神徳を全国で語り、勧請し、広がっていきました。四国遍路の札所寺院の近隣ではしばしば祀られています。



七仏薬師（シーボルト著 JAPAN）

ホーリー・ウェル（聖なる泉、英）

イギリスのウェールズにホーリー・ウェルという街があります。伝説では、7世紀にウィニフレッドという少女が、彼女を見そめた領主のカラドックの求婚を断り、尼僧になりました。怒ったカラドックが彼女の首をはねると、その首が落ちた所から泉が湧きました。その後、ウィニフレッドは叔父のビューノの祈りによって生き返ったため、泉の水は癒しの力があると言われるようになりました。この伝説によって、街はホーリー・ウェルと名づけられ、多くの巡礼者が訪れるようになりました。現在、その泉の水を満たしたプールがつくられ、癒

しを求める巡礼者が入水すると、種々の病気が治癒すると言われます。この泉の教会には、病気が治癒した人々の松葉杖が奉納されています。洋の東西を問わず、人々は神のご加護を求めて祈りを捧げます。



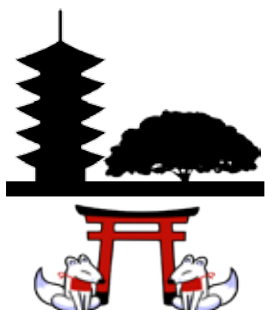
善通寺六地藏地区地域活性化推進会

赤門七仏薬師では、毎月8日のお薬師さんの縁日にお接待が行なわれています。2013年に発足した善通寺六地藏地区地域活性化推進会の皆さんが、商店街を歩行者天国とし、善通寺参詣者のみでなく市民も楽しめる集いの場を提供しています。身近な祈りの場が、多くの市民の交流の場になっています。



編集後記

「新 散策善通寺」第2号では、善通寺市だけでなく、京都に取材に出向き、さまざまな民間信仰を取材し、今回のテーマとしました。民間信仰は非常に複雑かつ難解であるため、制作に苦労しましたが、前回の経験から多少の余裕をもって取り組むことができました。メンバーが経験を重ねるに連れて「新 散策善通寺」も進化していきますので、これからも手に取っていただくと幸いです。四国学院大学1年 田井花音・鳥生ななせ・菊池有花



アクセス



バック・ナンバーは左の「散策 善通寺」より閲覧できます。

<http://shigakuweb.jimdo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学 空海カフェ
(shigakuweb@yahoo.co.jp)

制作協力

善通寺市役所土木都市計画課
(Tel. 63-6314)

参考文献

みちくさ遍路2001

印刷・製本 株式会社 弘栄社